



子ども教育常任委員会

所掌事項：文化、スポーツ、青少年育成、学校教育など

2年間のテーマ：GIGAスクール構想について

多摩市でも進められるGIGAスクール

GIGAスクール構想は、多様な子どもたちが誰一人取り残されることのないよう、公正に個別最適化された学びの場の実現のために、1人1台の端末と通信ネットワークを一体的に整備するものです。

本市でも、これまでの教育実践の蓄積にICTを活用することで、学習活動を一層充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の改善をめざし、昨年度補正予算を組み、情報環境整備を進めました。そうした整備により、子どもたちの学びは今、大きく変化してきていると思われます。

子どもたちへ最適な教育環境整備を

本委員会では「GIGAスクール構想について」を、この2年間の調査テーマとし、多摩市の未来を担い、新しい時代を生きていく全ての子どもたちに望ましい教育環境の整備と学びが進められるように、調査をしていきたいと考えています。

調査には、市立小中学校において、不登校の子どもが増加や先生たちの働き方改革が進められる等の状況下、GIGAスクール構想が子どもたちの学ぶ権利の保障や、先生の働き方にどう資するのかという視点も入れていきたいと考えています。

今度の決算審査の評価対象事業もこの調査テーマと連動させ、「学校情報環境整備事業」を選定しました。

構成メンバーが議会内各会派からの委員が全て揃っていると



前列左から、三階委員長、岸田副委員長
後列左から、遠藤委員、斎藤委員、安斉委員、大野委員

いう特徴を活かし、2年後に様々な視点を通した上での政策提言ができるよう取組んでいく予定です。

また「GIGAスクール構想について」の他に、図書館整備事業について、ヤングケアラーについて、それぞれ本委員会の調査テーマとして提案がありました。それらのテーマについても可能な範囲で、勉強会等を行っていきたいと考えています。

子ども教育分科会

評価対象事業：学校情報環境整備事業

事業を選んだ理由と評価の視点

新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年春は緊急事態宣言に伴う一斉臨時休業が要請され、本市内の市立小中学校も休校となりました。そうした状況下、ICTの活用で子どもたちへの学びを保障できる環境を早急に実現することも求められると考えられたことから、従来の計画を前倒しして、GIGAスクール構想への取組がなされることとなりました。

そのため、昨年度は学校情報環境整備事業について2度の補正予算計上があり、総額11億円を超える規模となりました。内容としては、児童・生徒1人1台のタブレット端末の整備と、これを授業で円滑に使用できるように通信環境の整備、各学級に1台の大型提示装置を設置、またオンライン学習に向けた動画作成のための機材の購入といったものです。

各学校に約50台前後配備されていたタブレット端末が、今年

度の4月より、市立小中学校の子どもたちは1人1台貸与され、授業での使用も始まりました。当分科会では、市立小中学校の視察も行いながら、授業でのタブレット端末活用の実態と成果を確認したいと考えています。

また教員間でのICTスキルの差が児童・生徒の学習の差も生んでしまうことや、姿勢が悪くなってしまう等のICT機器使用に伴う健康への影響などの指摘が、この事業の予算審査時に多く寄せられました。当分科会ではそれらの指摘も踏まえ、課題を整理し、次年度以降の予算に反映させることができるよう、しっかり事業評価を行っていききたいと思います。

